

芸術系教科・科目における 高次の資質・能力の在り方・示し方について

議題

芸術系教科・科目における 高次の資質・能力の在り方・示し方について

論点 1－1 高次の資質・能力の示し方について

論点 1－2 高次の資質・能力の内容について

1. 「高次の資質・能力」の可視化の目的

- 検討項目③では表形式での内容の構造化で、
 - ✓ 「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化
(従前の「タテ」の関係の可視化)
 - ✓ 「知・技」「思・判・表」の一体的育成の可視化
(従前の「ヨコ」の関係の可視化)

を図ることにより、資質・能力の関係性の理解に基づき、それらを
一体的に育成する单元づくりを助け「深い学び」を具現化しやすく
する方策を検討した

- このうち特に、「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」(※以下、総称して「高次の資質・能力」)を示すことについては、「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化を通じて「深い学び」を実現する单元づくりのイメージを教師が持てるようにする役割を担うもの

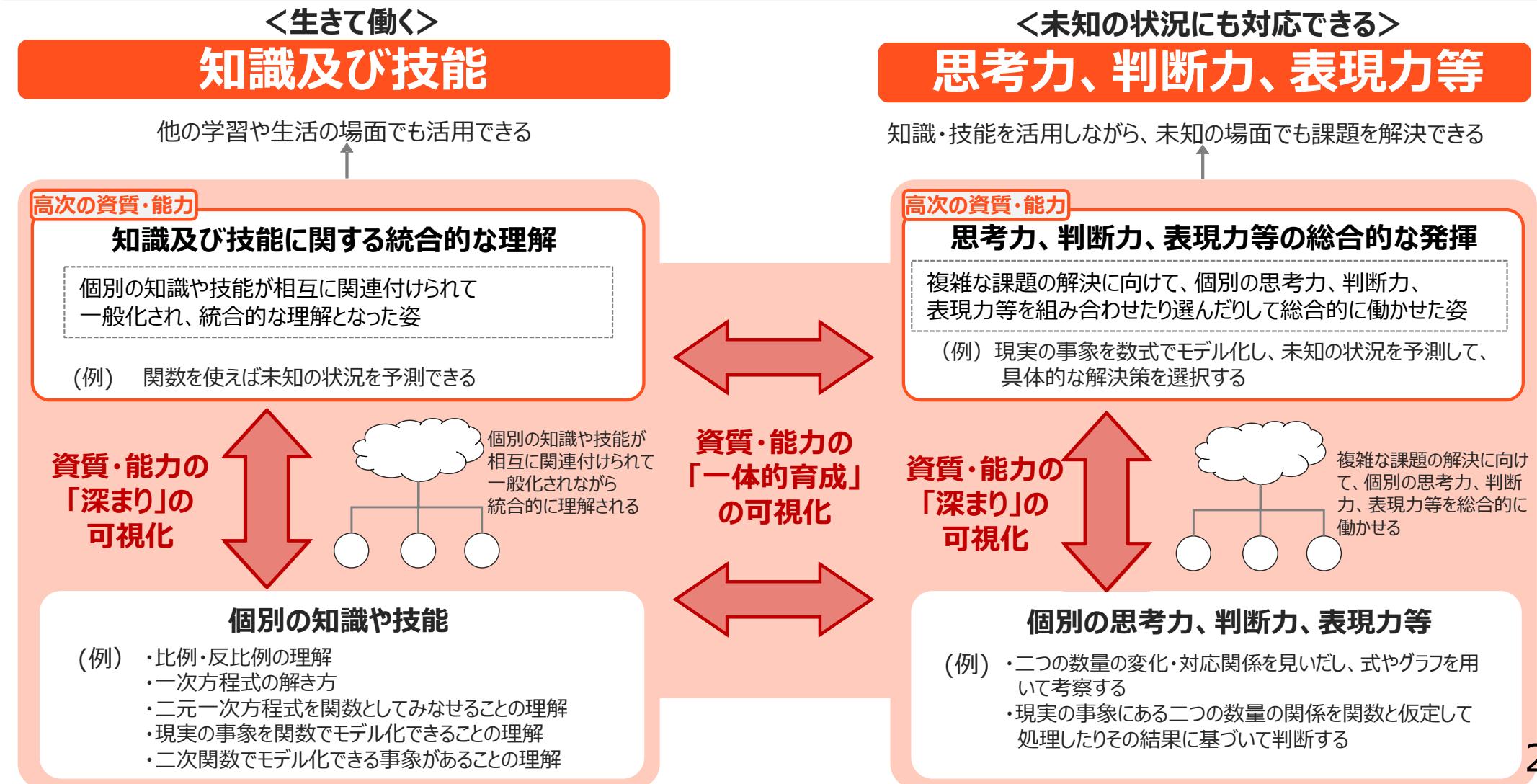
※論点整理では、「知・技」の深まりを示すものを「中核的な概念の深い理解」、「思・判・表」の深まりを示すものを「複雑な課題の解決」と仮称し、それらをまとめて「中核的な概念等」と呼んでいたが、新たな用語が増えることを避けるため現行でも用いられている言葉を用いることとしたもの。「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」をまとめて呼称する際、以後「高次の資質・能力」と呼ぶこととする。これらの用語の在り方については、各教科等WGでの具体的な議論も踏まえた上で、学校現場に趣旨が適切に伝わるものとなっているかという視点から継続的に検討。

2. 各WGでの検討に当たっての考え方

- こうした役割を果たす「高次の資質・能力」を各WGで具体的に抽出する際、各教科等固有の学習過程の改善を図るためには、教科ごとの特質に応じて検討が行われる必要があり、書きぶりを現時点で一律に整理すべきものではない
- 一方で、各教科等での「高次の資質・能力」は、備えるべき要素や性質等について、一定の共通性があることにより、各教科等を横断して適切に機能を発揮することが期待できる
- 各教科等の独自性を活かしつつ、共通に備えるべき要素や性質等が確保された「高次の資質・能力」の書きぶりとなるよう、次頁のように「高次の資質・能力」がその目的を踏まえたものとなっていることを担保するチェックポイントを示した上で、各教科等WGでの検討を深めてはどうか（次頁参照）
- なお、「全てのポイントに照らして異論の余地のない」ものを検討することは困難な場合も考えられるため、各教科等の授業改善に資する点を重視しつつ検討を進めるべきではないか

「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」の具現化

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要。思考力、判断力、表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（資質・能力の「深まり」）
- ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（資質・能力の「一体的育成」）
→こうした「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」を学習指導要領上で可視化することにより、資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする



※「高次の資質・能力」は、個別の資質・能力が深まることで至る、「統合的な理解」や「総合的な発揮」を指し示すものであり、個別の資質・能力との関係で重要性の軽重を意味するものではない。

検討項目④ 中核的な概念等(2)

「高次の資質・能力」を検討する上でのチェックポイント（案）

令和7年10月14日
総則・評価特別部会
資料1-1 P15
(会議後修正版)

【A 教科等の本質的意義の中核に照らした重要性の観点】

- ・目標の達成に資する上で重要であるとともに、各教科等の本質的意義の中核（「見方・考え方」）に照らし適切なものであるといえるか

【B 資質・能力の深まりを示す観点】

- ・要素となる個別の資質・能力の「深まり」を示す事ができているか。具体的には、内容のまとめを単に要約した「見出し」に留まるのではなく、個別の資質・能力が児童生徒の中で相互に関連付けられて、統合的に獲得された際の姿を示すことができているか
- ・要素となる個別の資質・能力を学ぶことの意義（※）や、それを広く社会において、いつ、どのような文脈で活用することができるのか、を教師がイメージしやすいものとなっているか

（※）学ぶことの「意義」は必ずしも実生活における実用的な側面にとどまらない点に留意

【C 深い学びを実現する単元づくりを助ける観点】

- ・教師が単元構想時に、「知識及び技能の統合的な理解」と、それにぶら下がる個別の「知・技」、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、単元を通じて児童生徒が追究する本質的な「問い合わせ」を構想する上で参考になるか
- ・教師が単元構想時に、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、論述・レポート・発表・作品製作等、単元を通じて児童生徒が資質・能力を総合的に発揮しながら取り組む課題を構想する上で参考になるか

【D 分かりやすさ等の観点】

- ・経験の浅い教師も含めて、一人一人の教師にとって、分かりやすく、使いやすいことに加え、教科等の面白さや魅力が伝わる文言となっているか（学習・指導を通じて、最終的には児童生徒自身が掴むことができる必要があるという点も留意）
- ・学校種・学年等、発達段階に即して妥当なものとなっているか（系統性等の重視により、発達段階に照らし過度に抽象的となっていないか等）

論点1－1 高次の資質・能力の示し方

- 高次の資質・能力及び個別の資質・能力（思考力、判断力、表現力等／知識及び技能）の系統性や深まりを分かりやすく提示するために、高次の資質・能力について、どのようなまとまりで示すことが適当と考えられるか。
- その際、特に、「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」を示すようにすることや、現状における指導上の課題の解決に資することが重要であり、**例えば、以下のようなまとまりにより、高次の資質・能力を整理することが考えられるのではないか。**
(P.9-13参照)

【示し方の基本的なまとまり】

- 小学校、中学校については、学校段階ごとにまとまりで示し、高等学校については、生徒によって必履修科目（音楽Ⅰ、美術Ⅰ、工芸Ⅰ、書道Ⅰ）の選択が異なり、原則としてⅠ、Ⅱ、Ⅲの順に履修することとなるため、**各科目の系統（音楽、美術、工芸、書道）ごとに、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのまとまりで高次の資質・能力を示す**
- 芸術系教科・科目においては、活動の実態を踏まえて表現と鑑賞に大別され、内容が体系的に整理されてきた実態を踏まえ、「A表現」及び「B鑑賞」の2つの領域による整理は維持した上で、**それぞれの領域ごとに高次の資質・能力（思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮／知識及び技能の統合的な理解）を示すことを基本とする**

【教科特性を考慮すべきと考えられる点】

- 音楽の「A表現」の示し方については、学問領域から演繹的に導かれる側面、系統性や専門性の高まりを踏まえ、以下のように区分を設けて整理してはどうか
 - ・**小学校は「歌唱・器楽」、「音楽づくり」ごとに示す**
 - ・**中学校、高等学校は「歌唱」、「器楽」、「創作」ごとに示す**
- 図画工作、美術、工芸の示し方については、育成を目指す資質・能力を明確にするため、以下のように区分を設けて整理してはどうか（図画工作は「A表現」、美術、工芸は「A表現」、「B鑑賞」）
 - ・**小学校図画工作は、「造形遊びをする」、「絵や立体、工作に表す」ごとに示す**
 - ・**中学校、高等学校美術は、「感じ取ったことや考えたことを基にした表現」、「目的と機能などを考えた表現」ごとに示す**
 - ・**高等学校工芸は、「身近な生活と工芸」、「社会と工芸」ごとに示す**

論点1－2 高次の資質・能力の内容

- 芸術系教科・科目の学習過程をイメージした場合、高次の資質・能力をどのように整理することができるか。
※「知識及び技能に関する統合的な理解」については、児童生徒の個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿を示し、「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」については、複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿を示す。
例えば、表現領域及び鑑賞領域における次のような大まかなイメージを基に、目標や本質的な意義（見方・考え方）や個別の学習内容との関係を踏まえて整理していくことが考えられるのではないか。

音楽

高次の資質・能力について、以下の趣旨を踏まえて整理してはどうか。

＜思考力、判断力、表現力等＞

- 曲の特徴を生かした表現に対する思いや意図をもって、自分や他者にとって表現がもつ意味や価値を考えること（表現領域、歌唱・器楽）
- 試行錯誤しながら、発想を得たり構成を工夫して思いや意図をもったりすること（表現領域、音楽づくり／創作）
- 自分や他者にとって表現がもつ意味や価値を考え、表現を深めること（表現領域、歌唱・器楽、音楽づくり／創作）
- 深い学びに欠かせない「音楽を形づくっている要素を思考・判断のよりどころ」とすること（表現・鑑賞領域、歌唱・器楽、音楽づくり／創作）

音楽（続き）

＜知識及び技能＞

- 児童生徒の個別性を大切にし、実感を伴って理解すること（表現領域、歌唱・器楽、音楽づくり／創作）
- 思いや意図に合わせた表現をするために必要な身体の使い方などの技能（表現領域、歌唱・器楽）
- 即興性を大切にして、音を音楽へと構成し創造するための技能（表現領域、音楽づくり／創作）

※鑑賞領域には現状では技能に対応する事項は位置付けられていないが、〔共通事項〕（特に音楽を形づくっている要素の知覚）や鑑賞の知識の内容に概ね包含されていると考えられるのではないか

＜領域共通＞

- 表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力として、「音楽を形づくっている要素」に関する内容を位置付けること

図画工作、美術、工芸

高次の資質・能力について、以下の趣旨を踏まえて整理してはどうか。

＜思考力、判断力、表現力等＞

- 形や色などを基に自分のイメージをもつこと、自己を深く見つめること、身近な生活や社会との関わりの視点に立って、発想や構想をすること（表現領域、発想や構想）
- 形や色などを基に自分のイメージをもつこと、作品などのよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること（鑑賞領域、鑑賞）

高次の資質・能力（中核的な概念等）の整理⑤

図画工作、美術、工芸（続き）

＜知識及び技能＞

- 知識を活用しながら、材料や用具を使って表現方法や表し方を工夫して表すことができること、創造的に表現できることについて理解すること（表現領域）
- 知識を活用しながら、作品などを、自分の体を使うなどして工夫して見ること、作品などの造形的な情報を読み取ること、見方や感じ方を深めることができることについて理解すること（鑑賞領域）

※ 鑑賞領域には現状では技能に対応する事項は位置付けられていないが、作品などを鑑賞する際の技能に関わることを位置付ける必要があるかどうか（例えば、作品などを方法を工夫して見る、情報を読み取るなどの技能は考えられないか）

＜領域共通＞

- 表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力として、〔共通事項〕にかかる内容について位置付けること

書道

高次の資質・能力について、以下の趣旨を踏まえて整理してはどうか。

＜思考力、判断力、表現力等＞

- 歴史や文化、社会などの関わりを通して、作品や書及びその美の意味や価値を考えること（表現領域、鑑賞領域）
- 生徒が自ら新たな美を生み出すために、主体的に考えながら、作品を構想したり表現を工夫したりすること（表現領域）

書道（続き）

<知識及び技能>

- 書の美の構造やその働きなどについて捉えながら、書独自の特質と関わる用筆運筆などの要素を働かせて表す技能を身に付け、自らの意図に基づいて創造的、個性的に表現することについて実感を伴って理解すること（表現領域）
- 我が国の書の伝統と文化を大切にする意義などを理解できるようにすること（鑑賞領域）
- 知識を活用しながら、作品などから情報を読み取り、書の美を豊かに味わい捉えることに繋げられることについて理解すること（鑑賞領域）

※鑑賞領域には現状では技能に対応する事項は位置付けられていないが、作品などを鑑賞する際の技能に関わることを位置付ける必要があるかどうか（例えば、作品などから感じ取った情報を精査するなどの技能は考えられないか）

<領域共通>

- 表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力として、〔共通事項〕にかかる内容について位置付けること

高次の資質・能力について、上記の芸術系教科・科目の特性ごとのイメージを踏まえつつ、以下の二面性及び小・中・高等学校における児童生徒の発達段階を考慮しつつ検討していくことが求められるのではないか

- ① 芸術系教科・科目の目標や本質的な意義から演繹的に導かれる側面と、
- ② 個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面

→本日は、次回でのたたき台の暫定的な整理へ向けて、御議論をいただきたい。（P.14～30）

論点1－1 高次の資質・能力の示し方①

高次の資質・能力の構成のイメージ

音楽

顕在化している課題

- 小学校で歌唱及び器楽で同一の曲を扱う場合において、歌唱と器楽の事項を別々に位置付けるなどして、焦点化した効果的な指導や評価が行われにくい状況がある



改善のイメージ

- 演奏法（声楽・器楽等）と作曲法による学問領域から演繹的に導かれる側面を踏まえ、教師にとって分かりやすく、使いやすくなるよう、音楽における区分構成を整理する。
- 小学校においては、授業のねらいや子供の実態に応じて柔軟で効果的な指導を行うことができるよう、「歌唱・器楽」及び「音楽づくり」により区分し、高次の資質・能力を示す
- 中学校、高等学校においては、小学校からの系統性や専門性の高まりを踏まえ、「歌唱」、「器楽」、「創作」により区分し、それぞれについて高次の資質・能力を示す

小学校

領域	(区分 P)		高次の資質・能力	資質・能力 (概略)
A	歌唱・器楽	思・判・表		
		知・技		
表現	音楽づくり	思・判・表		
		知・技		
B	鑑賞	思・判・表		
		知・技		

中学校、高等学校

領域	(区分 P)		高次の資質・能力	資質・能力 (概略)
A	歌唱	思・判・表		
		知・技		
表現	器楽	思・判・表		
		知・技		
創作		思・判・表		
		知・技		
B	鑑賞	思・判・表		
		知・技		

※高次の資質・能力の構成については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－1 高次の資質・能力の示し方②

高次の資質・能力の構成のイメージ

図画工作

顕在化している課題

- 表現や鑑賞の活動 자체が目的となり、育成を目標とする資質・能力が明確になっていない指導が見られる
- 表現と鑑賞を関連付けて指導することや、3つの柱で整理された資質・能力を相互に関連させながら育成することについては、一層の充実が望まれる



改善のイメージ

- 教師にとってわかりやすく、使いやすくなるよう、育成を目標とする資質・能力を明確にし、区分構成を整理する。

※造形遊びをする活動を通して、造形的な活動について発想や構想をしたり、活動を工夫してつくりたりすること、絵や立体、工作中に表す活動を通して、表したいことについて発想や構想をしたり、表し方を工夫して表したりすること、にそれぞれ区分して整理

- 「思考力、判断力、表現力等」「知識及び技能」が関連して育成していくことを明確にできるよう、高次の資質・能力を示す

領域	（区分）		高次の資質・能力	資質・能力（概略）
A 表現	造形遊びをする（仮）	思・判・表		
	知・技			
B 鑑賞	絵や立体、工作中に表す（仮）	思・判・表		
	知・技			
B 鑑賞	思・判・表			
	知・技			

※区分の名称等については引き続き検討。

※高次の資質・能力の構成については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－1 高次の資質・能力の示し方③

高次の資質・能力の構成のイメージ

美術

顕在化している課題

- 表現や鑑賞の活動自体が目的となり、育成を目指す資質・能力が明確になっていない指導が見られる
- 表現と鑑賞を関連付けて指導することや、3つの柱で整理された資質・能力を相互に関連させながら育成することについては、一層の充実が望まれる



改善のイメージ

- 教師にとってわかりやすく、使いやすくなるよう、育成を目指す資質・能力を明確にし、区分構成を整理する。
※対象や自己の内面を見つめて感じたことや考えたことを基に創造的に表現すること、見る人や使う人の立場に立って目的や条件を基に創造的に表現すること、にそれぞれ区分して整理
※鑑賞にも同様に位置づける
- 「思考力、判断力、表現力等」「知識及び技能」が関連して育成していくことを明確にできるよう、高次の資質・能力を示す

中学校

領域	～区分	高次の資質・能力		資質・能力(概略)
表現	自分と美術(仮)	思・判・表		
		知・技		
	身近な生活や社会と美術(仮)	思・判・表		
		知・技		
鑑賞	自分と美術(仮)	思・判・表		
		知・技		
	身近な生活や社会と美術(仮)	思・判・表		
		知・技		

高等学校

領域	～区分	高次の資質・能力		資質・能力(概略)
表現	自分と美術(仮)	思・判・表		
		知・技		
	社会と美術(仮)	思・判・表		
		知・技		
鑑賞	自分と美術(仮)	思・判・表		
		知・技		
	社会と美術(仮)	思・判・表		
		知・技		

※中学校・高等学校共に区分の名称等については引き続き検討。

※高次の資質・能力の構成については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－1 高次の資質・能力の示し方④

高次の資質・能力の構成のイメージ

工芸

顕在化している課題

- 表現や鑑賞の活動自体が目的となり、育成を目指す資質・能力が明確になっていない指導が見られる
- 表現と鑑賞を関連付けて指導することや、3つの柱で整理された資質・能力を相互に関連させながら育成することについては、一層の充実が望まれる



改善のイメージ

- 現行の「**身近な生活と工芸**」及び「**社会と工芸**」を区分として維持しつつ、表現や鑑賞の指導が関連できるように整理し、教師にとって分かりやすく、使いやすくなるよう、それぞれについて高次の資質・能力を示す

高等学校

領域	へ区分 P	高次の資質・能力	資質・能力 (概略)
A 表現	身 近 な 生 活 と 工 芸	思・判・表	
		知・技	
	社 会 と 工 芸	思・判・表	
		知・技	
B 鑑賞	身 近 な 生 活 と 工 芸	思・判・表	
		知・技	
	社 会 と 工 芸	思・判・表	
		知・技	

※高次の資質・能力の構成については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－1 高次の資質・能力の示し方⑤

高次の資質・能力の構成のイメージ

書道（高等学校芸術科）

顕在化している課題

- 書道Ⅱ以降の選択を踏まえ、「A表現」について、「漢字仮名交じりの書」、「漢字の書」及び「仮名の書」において共通に育成する資質・能力を明確に示す必要がある
- 表現及び鑑賞の相互の関連が適切に図られていない状況がある



改善のイメージ

- 「漢字仮名交じりの書」、「漢字の書」及び「仮名の書」において共通に育成する資質・能力を、共通の高次の資質・能力として示し、それに基づいてさらにそれぞれの特性に応じて具体的な資質・能力を育成することをわかりやすくするとともに、「A表現」としての学びの深まりの基軸を明確にする
- 「B鑑賞」の構造を見直し、資質・能力に基づいて表現と鑑賞の相互の関連を更に図る

領域	高次の資質・能力		資質・能力（概略）
A 表現	思・判・表		
	知・技		
B 鑑賞	思・判・表		
	知・技		

※高次の資質・能力の構成については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－2 高次の資質・能力の内容のイメージ①

音楽（小学校）

思考力、判断力、表現力等

高次の資質・能力について、
①音楽科の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面と、
②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面
の二面性を踏まえ、検討いただきたい

目標

思考力、判断力、表現力等

音楽表現について考え方や意図をもつとともに、曲や演奏のよさや楽しさなどを見いだしながら聞き深めることができるようにする

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化の視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	歌唱・器楽	音楽を形づくっている要素をよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴を生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値について考え、表現を深めることができる	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none">・音楽を形づくっている要素を聞き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える・思いや意図をもつ
	音楽づくり	音楽を形づくっている要素をよりどころにして思考を巡らせ、発想を得たり構成を工夫して思いや意図をもったりし、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、表現を深めることができる	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none">・音楽を形づくっている要素を聞き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える・音楽づくりの発想を得る・思いや意図をもつ
鑑賞		音楽を形づくっている要素をよりどころにして思考を巡らせ、曲全体を見通しながら聞き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見いだし音楽を聞き深めることができる	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none">・音楽を形づくっている要素を聞き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える・曲や演奏のよさなどを見いだす

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－2 高次の資質・能力の内容のイメージ②

音楽（小学校）

知識及び技能

目標

知識及び技能

曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化の視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	歌唱・器楽	個々の感じ方や考え方等に基づいて曲の特徴などを捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱や器楽で表すことができることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素について理解する ・音符、休符、記号や用語について理解する <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解する ・声や楽器の音色、響きと歌い方や演奏の仕方の関わりについて理解する ・聴唱や視唱、聴奏や視奏する技能を身に付ける ・発音、発声、奏法の技能を身に付ける ・声や音を合わせて演奏する技能を身に付ける
	音楽づくり	個々の感じ方や考え方等に応じて音の組み合わせやつなげ方などについて捉えながら、即興的に音を出して試したり音楽の仕組みを用いたりすることにより、音楽づくりの発想を得たり思いや意図を音楽をつくりて表すことができることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素について理解する ・音符、休符、記号や用語について理解する <ul style="list-style-type: none"> ・音の響きやそれらの組み合わせの特徴について理解する ・音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について理解する ・音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付ける ・音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付ける
鑑賞		個々の感じ方や考え方等に基づいて音楽の特徴などを捉えることにより、よさなどを見いだすことができることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素について理解する ・音符、休符、記号や用語について理解する <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解する

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－2 高次の資質・能力の内容のイメージ③

音楽（中学校）

思考力、判断力、表現力等

目標

思考力、判断力、表現力等

表したい音楽表現について考え方や意図をもつとともに、自分にとっての曲や演奏の価値などを考え聞き深めることができるようとする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	音楽を形づくっている要素をよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴を生かし自分のイメージと関わらせた表現に対する考え方や意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値について考え、表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考える ・思いや意図をもつ
	器楽	音楽を形づくっている要素をよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴を生かし自分のイメージと関わらせた表現に対する考え方や意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値について考え、表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考える ・思いや意図をもつ
	創作	音楽を形づくっている要素をよりどころにして思考を巡らせ、課題や条件に沿って音楽をつくるための考え方や意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考える ・思いや意図をもつ
鑑賞		音楽を形づくっている要素をよりどころにして思考を巡らせ、曲や演奏を自分と関わらせながら聞き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見いだし音楽を聞き深めることができる	〔共通事項〕 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考える ・音楽を評価しながら聞く

高次の資質・能力について、

- ①音楽科の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の二面性を踏まえ、検討いただきたい

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化の視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－2 高次の資質・能力の内容のイメージ④

音楽（中学校）

知識及び技能

目標

知識及び技能

曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようとする

内容

高次の資質・能力について、

- ①音楽科の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の二面性を踏まえ、検討いただきたい

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化の視点で捉え、意味や価値を見出すこと

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	個々の感じ方や考え方等に基づいて曲の特徴などを捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱で表すことができることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素とそれに関わる記号や用語について理解する ・曲想と音楽の構造との関わり、声の音色や響きと曲種に応じた発声との関わりなどについて理解する ・発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能などを身に付ける
	器楽	個々の感じ方や考え方等に基づいて曲の特徴などを捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を器楽で表すことができることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素とそれに関わる記号や用語について理解する ・曲想と音楽の構造との関わり、楽器の音色や響きと奏法との関わりなどについて理解する ・楽器の奏法、身体の使い方などの技能などを身に付ける
	創作	個々の感じ方や考え方等に応じて音や音同士の関係の特徴を捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、思いや意図を創作で表すことができることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素とそれに関わる記号や用語について理解する ・音のつながり方、音素材、音の重なり方、構成上の特徴などについて理解する ・課題や情景に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける
鑑賞		個々の感じ方や考え方等に基づいて音楽の特徴や背景などを捉えることにより、よさや美しさなどを見出すことができることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素とそれに関わる記号や用語について理解する ・曲想と音楽の構造との関わり、音楽の特徴とその背景となる歴史や文化などの関わりなどについて理解する

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－2 高次の資質・能力の内容のイメージ⑤

図画工作

思考力、判断力、表現力等

目標

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようとする

内容

高次の資質・能力について、

- ①図画工作科の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の二面性を踏まえ、検討いただきたい

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	造形遊びをする（仮）	形や色などを基に自分のイメージをもちながら、材料や場所などを基に造形的な活動を思い付き、活動やつくり方などについて考え、楽しく豊かに発想や構想をすることができる	〔共通事項〕 ・形や色などを基に自分のイメージをもつ ・身近な自然物や人工の材料や場所などを基に造形的な活動を思い付く ・どのように活動するかについて考える
	絵や立体、工作中に表す（仮）	形や色などを基に自分のイメージをもちながら、表したいことを見付け、表し方などについて考え、楽しく豊かに発想や構想をすることができる	〔共通事項〕 ・形や色などを基に自分のイメージをもつ ・感じたこと、想像したことなどから表したいことを見付ける。 ・どのように表すかについて考える
鑑賞		形や色などを基に自分のイメージをもちながら、作品などの造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、自分の見方や感じ方を広げたり深めたりすることができる	〔共通事項〕 ・形や色などを基に自分のイメージをもつ ・作品などのよさや美しさなどについて感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を深める

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－2 高次の資質・能力の内容のイメージ⑥

図画工作

知識及び技能

目標

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点や造形の働きについて理解するとともに、創造的につくったり見たりすることができるようになる

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、
造形的、文化的な
視点で捉え、意味や
価値をつくりだすこと

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	造形遊びをする（仮）	自分の感覚や行為を通して造形的な特徴や造形の働きを捉えながら、材料や用具を使い、活動を工夫してつくることにより、創造的に表現できることを、実感を伴って理解している	〔共通事項〕 ・形や色などや、造形の働きについて理解する ・材料や用具を扱う、活動を工夫してつくるなどの技能に関する事項を身に付ける
	絵や立体、工作に表す（仮）	自分の感覚や行為を通して造形的な特徴や造形の働きを捉えながら、材料や用具を使い、考えを基に表し方を工夫して表すことにより、創造的に表現できることを、実感を伴って理解している	〔共通事項〕 ・形や色などや、造形の働きについて理解する ・材料や用具を扱う、活動を工夫してつくるなどの技能に関する事項を身に付ける ・表したいことに合わせて表し方を工夫して表すなどの技能に関する事項を身に付ける
鑑賞		自分の感覚や行為を通して造形的な特徴や造形の働きを捉えながら、作品などを、自分の体を使うなどして工夫して見ることにより、自分の見方や感じ方を深めることができることを、実感を伴って理解している	〔共通事項〕 ・形や色などや、造形の働きについて理解する ・自分たちの作品や、親しみのある美術作品などを、体全体を使って、方法を工夫して見る

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－2 高次の資質・能力の内容のイメージ

美術（中学校）

思考力・判断力・表現力等

高次の資質・能力について、
①美術科の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面と、
②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面
の二面性を踏まえ、検討いただきたい

目標

思考力・判断力・表現力等

造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、
創造的に発想し構想を練ったり、美術作品などに対する見方や
感じ方を深めたりすることができるようとする

内容

領域	区分(P)	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な發揮】	資質・能力（概略）
表現	自分と 美術 (仮)	自分との関わりの視点に立って、対象や事象、自己を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、豊かに発想したり構想を練ったりすることができる	<ul style="list-style-type: none">・感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出す・創造的な構成を工夫し、表現の構想を練る
	身近な 生活や 社会と 美術 (仮)	身近な生活や社会との関わりの視点に立って、目的や機能などを考え主題を生み出し、豊かに発想したり構想を練ったりすることができる	<ul style="list-style-type: none">・構成や装飾、伝える、使う目的や条件などを基に主題を生み出す・調和のとれた美しさなどを考えて表現の構想を練る
鑑賞	自分と 美術 (仮)	自分との関わりの視点に立って、美術作品などのよさ、表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる	<ul style="list-style-type: none">・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深める
	身近な 生活や 社会と 美術 (仮)	身近な生活や社会との関わりの視点に立って、美術作品などの目的や機能との調和のとれた美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる	<ul style="list-style-type: none">・目的や機能との調和のとれた美しさを感じ取り、作者の心情、表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深める

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、
造形的、文化的な
視点で捉え、意味や
価値をつくりだすこと

論点1－2 高次の資質・能力の内容のイメージ

美術（中学校）

知識及び技能

目標

高次の資質・能力について、
 ①美術科の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面と、
 ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面
 の二面性を踏まえ、検討いただきたい

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点や美術の働き、美術文化について理解するとともに、発想や構想したことを基に創造的に表すことや、造形的な情報を読み取ることができるようする

見方・考え方

内容

領域	区分(P)	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術（仮）	造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働き、美術文化について捉えながら、材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に応じて表現方法を工夫して表すことにより、創造的に表現できることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・美術の働きや美術文化について理解する <p>・材料や用具の特性を生かし、創造的に表すなどの技能に関する事項を身に付ける</p> <p>・制作の順序を考えながら見通しをもって表すなどの技能に関する事項を身に付ける</p>
	身近な生活や社会と美術（仮）	造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働き、美術文化について捉えながら、材料や用具の特性を生かし、意図に応じて表現方法を工夫し表すことにより、創造的に表現できることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・美術の働きや美術文化について理解する <p>・材料や用具の特性を生かし、創造的に表すなどの技能に関する事項を身に付ける</p> <p>・制作の順序を考えながら見通しをもって表すなどの技能に関する事項を身に付ける</p>
鑑賞	自分と美術（仮）	造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働き、美術文化について捉えながら、感じ取ったことや考えたことなどを基に表現された美術作品などの造形的な情報を読み取ることにより、見方や感じ方を深めることができることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・美術の働きや美術文化について理解する <p>・視覚的な特徴などの情報を読み取る</p>
	身近な生活や社会と美術（仮）	造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働き、美術文化について捉えながら、目的や機能などを考えて表現された美術作品などの造形的な情報を読み取ることにより、見方や感じ方を深めることができることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・美術の働きや美術文化について理解する <p>・視覚的な特徴などの情報を読み取る</p>

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、
 造形的、文化的な視点で捉え、意味や
 価値をつくりだすこと

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－2 高次の資質・能力の内容のイメージ⑨

音楽（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、表現力等

創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようとする

科目目標（音楽Ⅰ）

思考力、判断力、表現力等

自己のイメージに基づいた音楽表現について考え方表現意図をもつとともに、音楽を解釈したり曲や演奏を評価したりしながら聞き深めることができるようとする

内容（音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	音楽を形づくっている要素をよりどころにして思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値について考え、表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考える ・表現意図をもつ
	器楽	音楽を形づくっている要素をよりどころにして思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値について考え、表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考える ・表現意図をもつ
	創作	音楽を形づくっている要素をよりどころにして思考を巡らせ、構成を生かした統一感のある音楽をつくるための表現意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考える ・表現意図をもつ
鑑賞		音楽を形づくっている要素をよりどころにして思考を巡らせ、音楽を解釈したり曲や演奏を評価したりしながら聞き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見いだし音楽を聞き深めることができる	〔共通事項〕 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考える ・音楽を解釈したり評価したりしながら聞く

高次の資質・能力について、

- ①音楽科の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の二面性を踏まえ、検討いただきたい

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化の視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－2 高次の資質・能力の内容のイメージ⑩

音楽（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

見方・考え方

科目目標（音楽Ⅰ）

知識及び技能

曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かし曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化の視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

内容（音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	個々の感じ方や考え方等に基づいて曲の特徴などを捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を歌唱で表すことができることを、実感を伴って理解している	〔共通事項〕 ・音楽を形づくっている要素と音楽に関する記号や用語について理解する ・曲想と音楽の構造との関わり、声の音色や響きと曲種に応じた発声との関わりなどについて理解する ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能などを身に付ける
	器楽	個々の感じ方や考え方等に基づいて曲の特徴などを捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を器楽で表すことができることを、実感を伴って理解している	〔共通事項〕 ・音楽を形づくっている要素と音楽に関する記号や用語について理解する ・曲想と音楽の構造との関わり、楽器の音色や響きと奏法との関わりなどについて理解する ・曲にふさわしい楽器の奏法、身体の使い方などの技能などを身に付ける
	創作	個々の感じ方や考え方等に応じて音や音同士の関係の特徴を捉えながら、状況や課題に応じて音楽をつくり変奏や編曲をしたりすることにより、表現意図を創作で表すことができることを、実感を伴って理解している	〔共通事項〕 ・音楽を形づくっている要素と音楽に関する記号や用語について理解する ・音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型、構成上の特徴について理解する ・反復、変化、対象などの手法を活用して音楽をつくる技能、変奏したり編曲したりする技能などを身に付ける
鑑賞		個々の感じ方や考え方等に基づいて音楽の特徴や文化的・歴史的背景などを捉えることにより、よさや美しさなどを見いだすことができることを、実感を伴って理解している	〔共通事項〕 ・音楽を形づくっている要素と音楽に関する記号や用語について理解する ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりなどについて理解する

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－2 高次の資質・能力の内容のイメージ

美術（高等学校芸術科）

思考力・判断力・表現力等

教科目標（芸術科）

思考力・判断力・表現力等

科目目標（美術Ⅰ）

思考力・判断力・表現力等

内容（美術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

高次の資質・能力について、

- ①芸術科美術の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の二面性を踏まえ、検討いただきたい

創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようとする

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

領域	区分(P)	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な發揮】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術（仮）	自分との関わりの視点に立って、対象や事象、自己を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生成し、創造的に発想したり構想を練ったりすることができる	(絵画・彫刻、映像メディア表現) ・感じ取ったことや考えたことを基に主題を生成する ・創造的な表現の構想を練る
	社会と美術（仮）	社会との関わりの視点に立って、目的や機能などを考え主題を生成し、創造的に発想したり構想を練ったりすることができる	(デザイン、映像メディア表現) ・目的や条件、機能などを考え、主題を生成する ・創造的な表現の構想を練る
鑑賞	自分と美術（仮）	自分との関わりの視点に立って、美術作品などのよさ、表現の意図と創造的な工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる	(絵画・彫刻、映像メディア表現) ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な表現の工夫などを考えて、見方や感じ方を深める
	社会と美術（仮）	社会との関わりの視点に立って、美術作品などの目的や機能との調和のとれた洗練された美しさ、表現の意図と創造的な工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる	(デザイン、映像メディア表現) ・目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な工夫などを考えて、見方や感じ方を深める

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－2 高次の資質・能力の内容のイメージ⑫

美術（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

科目目標（美術Ⅰ）

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点や美術の働き、美術文化について理解を深めるとともに、発想や構想したことを基に創造的に表すことや、造形的な情報を精査して読み取ることができるようとする

内容（美術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分(P)	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術（仮）	造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働き、美術文化について捉えながら、意図に応じて、材料や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫し主題を追求して表すことにより、創造的に表現できることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料や光などの性質やその効果など、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・美術の働きや美術文化について理解する ・材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かす ・主題を追求し創造的に表すなどの技能に関する事項を身に付ける
	社会と美術（仮）	造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働き、美術文化について捉えながら、意図に応じて、材料や用具の特性を生かし、目的や計画を基に表すことにより、創造的に表現できることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料や光などの性質やその効果など、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・美術の働きや美術文化について理解する ・材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かす ・目的や計画を基に創造的に表すなどの技能に関する事項を身に付ける
鑑賞	自分と美術（仮）	造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働き、美術文化について捉えながら、感じ取ったことや考えたことなどを基に表現された美術作品などの造形的な情報を精査して読み取ることにより、見方や感じ方を深めることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料や光などの性質やその効果など、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・美術の働きや美術文化について理解する ・視覚的な特徴などの情報を読み取る ・背景や文脈などを踏まえながら美術作品などの情報を読み取る
	社会と美術（仮）	造形の要素の働きや全体のイメージ、美術の働き、美術文化について捉えながら、目的や機能などを考えて表現された美術作品などの造形的な情報を精査して読み取ることにより、見方や感じ方を深めることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料や光などの性質やその効果など、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・美術の働きや美術文化について理解する ・視覚的な特徴などの情報を読み取る ・背景などを踏まえながら美術作品などの情報を読み取る

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－2 高次の資質・能力の内容のイメージ⑬

工芸（高等学校芸術科）

思考力・判断力・表現力等

教科目標（芸術科）

思考力・判断力・表現力等

科目目標（工芸Ⅰ）

思考力・判断力・表現力等

内容（工芸Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

高次の資質・能力について、

- ①芸術科工芸の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の二面性を踏まえ、検討いただきたい

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

領域	区分(P)	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	身近な生活と工芸	身近な生活との関わりの視点に立って、自然や素材、自己の思いなどから心豊かに発想したり構想を練ったりすることができる	(身近な生活の視点に立った発想や構想) ・自然や素材、自己の思いなどから、心豊かな発想をする ・制作の構想を練る
	社会と工芸	社会との関わりの視点に立って、使う人や生活環境などから心豊かに発想したり構想を練ったりすることができる	(社会的な視点に立った発想や構想) ・使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をする ・制作の構想を練る
鑑賞	身近な生活と工芸	身近な生活との関わりの視点に立って、工芸作品などのよさ、表現の意図や制作過程における工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる	(身近な生活の視点に立って考える鑑賞) ・工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考えて、見方や感じ方を深める
	社会と工芸	社会との関わりの視点に立って、工芸作品などのよさ、表現の意図や制作過程における工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる	(社会的な視点に立って考える鑑賞) ・工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考えて、見方や感じ方を深める

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－2 高次の資質・能力の内容のイメージ⑭

工芸（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

科目目標（工芸Ⅰ）

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点や工芸の働き、工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、発想や構想したことを基に創造的に表すことや、造形的な情報を精査して読み取ることができるようにする

内容（工芸Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、
造形的、文化的な
視点で捉え、意味や
価値をつくりだすこと

領域	区分(P)	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	身近な生活と工芸	造形の要素の働きや全体のイメージ、工芸の働き、工芸の伝統文化について捉えながら、身近な生活の視点に立って発想や構想したことを基に、意図に応じて、材料や用具を生かし、手順や技法などを吟味し表すことにより、創造的に表現できることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、素材や光などの性質やその効果など、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解する <p>・意図に応じて材料や用具を生かす</p> <p>・手順や技法などを吟味し、創造的に表すことなどの技能に関する事項を身に付ける</p>
	社会と工芸	造形の要素の働きや全体のイメージ、工芸の働き、工芸の伝統文化について捉えながら、社会的な視点に立って発想や構想したことを基に、意図に応じて、材料や用具を生かし、手順や技法などを吟味し表すことにより、創造的に表現できることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、素材や光などの性質やその効果など、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解する <p>・意図に応じて材料や用具を生かす</p> <p>・手順や技法などを吟味し、創造的に表すことなどの技能に関する事項を身に付ける</p>
鑑賞	身近な生活と工芸	造形の要素の働きや全体のイメージ、工芸の働き、工芸の伝統文化について捉えながら、身近な視点に立って表現された工芸作品などの造形的な情報を精査して読み取ることにより、見方や感じ方を深めることができることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、素材や光などの性質やその効果など、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解する <p>・視覚的な特徴などの情報を読み取る</p> <p>・背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取る</p>
	社会と工芸	造形の要素の働きや全体のイメージ、工芸の働き、工芸の伝統文化について捉えながら、社会的な視点に立って表現された工芸作品などの造形的な情報を精査して読み取ることにより、見方や感じ方を深めことができることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、素材や光などの性質やその効果など、全体のイメージなどで捉えることを理解する ・工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解する <p>・視覚的な特徴などの情報を読み取る</p> <p>・背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取る</p>

※目標、内容等については、今後の
芸術ワーキンググループにおける検討や
総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－2 高次の資質・能力の内容のイメージ⑯

書道（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、表現力等

科目目標（書道Ⅰ）

思考力、判断力、表現力等

内容（書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

高次の資質・能力について、

- ①芸術科書道の目標や本質的な意義（見方・考え方）から演繹的に導かれる側面と、
- ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面の二面性を踏まえ、検討いただきたい

見方・考え方

感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

領域	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、作品や書のよさや美しさについて深く考えながら、自らの意図に基づいて構想し、その実現のために表現を工夫することができる	<p>＜漢字仮名交じりの書＞ ・名筆を生かした表現や現代に生きる表現、自らの意図に基づく創造的、個性的な表現を構想し工夫する ＜漢字の書＞ ・漢字の書の伝統と文化に基づく表現、自らの意図に基づく創造的、個性的な表現を構想し工夫する ＜仮名の書＞ ・仮名の書の伝統と文化に基づく表現、自らの意図に基づく創造的、個性的な表現を構想し工夫する</p>
鑑賞	書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化等との関わりを通して、作品や書のよさや美しさを捉え、作品や書の伝統と文化の意味や価値について深く考えながら、書の美を味わい捉えることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・作品や書の価値とその根拠、書の美の意味や価値、書の普遍的価値について考える ・生活や社会における文字や書の働きや効用、書の美の働きや効用、現代における作品や書の意味や価値について考える

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

論点1－2 高次の資質・能力の内容のイメージ⑯

書道（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

科目目標（書道Ⅰ）

知識及び技能

書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統と文化に基づき、創造的に表すことや、作品や書から美に関する情報を読み取ることができるようにする

内容（書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	作品や書の表現や書風における美の構造やその働き、書文化について捉えながら、意図に基づいて、書の表現性、表現効果と関わる用筆・運筆などの要素を働かせて表すことにより、創造的、個性的に表現できることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書の表現性とその表現効果との関わりについて理解する ・書を構成する要素について、相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解する <p>〈漢字仮名交じりの書〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字仮名交じりの書及びその美を構成する要素の働き、多様な表現について理解する ・意図に基づいて漢字仮名交じりの書を表す技能を身に付ける <p>〈漢字の書〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書及びその美を構成する要素の働き、漢字の書の多様な書風について理解する ・意図に基づいて漢字の書を表す技能を身に付ける <p>〈仮名の書〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮名の書及びその美を構成する要素の働き、仮名の書の多様な書風について理解する ・意図に基づいて仮名の書を表す技能を身に付ける
鑑賞	書の伝統と文化、書の美の多様性を捉えながら、書の美を捉える視点や方法を用いて作品や書から感じ取った情報を読み取ることにより、作品や書の美を豊かに味わい捉えることに繋げられることを、実感を伴って理解している	<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書の表現性とその表現効果との関わりについて理解する ・書を構成する要素について、相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解する <p>・書を鑑賞するための方法や多様な背景との関わりについて理解する</p> <p>・作品や書から美に関する情報を読み取る技能を身に付ける</p>

見方・考え方

感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

各学校段階における目標の検討素案一覧（音楽）

柱書	小学校	表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す	
	中学校	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す	
	高等学校	音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す	
	小学校	曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする	
知識及び技能	中学校	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする	
	高等学校	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かし曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする	
	小学校	音楽表現について考え方や意図をもつとともに、曲や演奏のよさや楽しさをなどを見いたしながら聞き深めることができるようする	
	中学校	表したい音楽表現について考え方や意図をもつとともに、自分にとっての曲や演奏の価値などを考え方深めることができるようする	
思考力、表現力、判断力等	高等学校	自己のイメージに基づいた音楽表現について考え方表現意図をもつとともに、音楽を解釈したり曲や演奏を評価したりしながら聞き深めができるようする	
	小学校	音楽活動の楽しさを味わいながら主体的・協働的に学習に取り組み、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、創造的に音楽に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う	
	中学校	音楽活動の楽しさを味わいながら主体的・協働的に学習に取り組み、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う	
	高等学校	主体的・協働的に学習に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う	
目標	思 考 力、 表 現 力、 判 断 力、	学 び に 向 か う 力、 人 間 性 	30

各学校段階における目標の検討素案一覧（図画工作、美術、工芸）

柱書	小学校	表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色など豊かに関わる資質・能力について、次の通り育成することを目指す
	中学校	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力について次のとおり育成することを目指す
	高等学校	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力について次のとおり育成することを目指す【美術Ⅰ】
		工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力について次のとおり育成することを目指す【工芸Ⅰ】
知識及び技能	小学校	対象や事象を捉える造形的な視点や造形の働きについて理解するとともに、創造的につくったり見たりすることができるようとする
	中学校	対象や事象を捉える造形的な視点や美術の働き、美術文化について理解するとともに、発想や構想したことを基に創造的に表すことや、造形的な情報を読み取ることができるようとする
	高等学校	対象や事象を捉える造形的な視点や美術の働き、美術文化について理解を深めるとともに、発想や構想したことを基に創造的に表すことや、造形的な情報を精査して読み取ることができるようとする【美術Ⅰ】
		対象や事象を捉える造形的な視点や工芸の働き、工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、発想や構想したことを基に創造的に表すことや、造形的な情報を精査して読み取ることができるようとする【工芸Ⅰ】
目標	小学校	造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようとする
	中学校	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、創造的に発想し構想を練ったり、美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする
	高等学校	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする【美術Ⅰ】
		造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする【工芸Ⅰ】
思考力、表現力、判断力等	小学校	つくりだす喜びを味わいながら、主体的・協働的に学習活動に取り組むとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う
	中学校	美術の創造活動の喜びを味わいながら、主体的・協働的に美術の学習活動に取り組むとともに、美術を愛好する心情を育み、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、感性を豊かにし、豊かな情操を培う
	高等学校	主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う【美術Ⅰ】
		主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う【工芸Ⅰ】
学びに向かう力、人間性等	小学校	
	中学校	
	高等学校	

高等学校芸術科各科目における目標の検討素案一覧

柱書

芸術科

芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す

音楽 I

音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す

美術 I

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力について次のとおり育成することを目指す

工芸 I

工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力について次のとおり育成することを目指す

書道 I

書道の幅広い活動を通して、生活や社会中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す

知識及び技能

芸術科

芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

音楽 I

曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かし曲や音楽を創造的に表現するために必要な技能を身に付けるようにする

美術 I

対象や事象を捉える造形的な視点や美術の働き、美術文化について理解を深めるとともに、発想や構想したことを基に創造的に表すことや、造形的な情報を精査して読み取ることができるようとする

工芸 I

対象や事象を捉える造形的な視点や工芸の働き、工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、発想や構想したことを基に創造的に表すことや、造形的な情報を精査して読み取ることができるようとする

書道 I

書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統と文化に基づき、創造的に表すことや、作品や書から美に関する情報を読み取ることができるようとする

目標

思考力、表現力、判断力等

芸術科

創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようとする

音楽 I

自己のイメージに基づいた音楽表現について考え方表現意図をもつとともに、音楽を解釈したり曲や演奏を評価したりしながら聴き深めることができるようとする

美術 I

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする

工芸 I

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする

書道 I

書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の美と、その伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようとする

学びに向かう力、人間性等

芸術科

生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

音楽 I

主体的・協働的に学習に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う

美術 I

主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

工芸 I

主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

書道 I

主体的・協働的に書の幅広い学習に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

第1～3回芸術WGにおける主な意見①

【創造性】

- 芸術系教科の特徴として創造性がある。自分にとってどんな価値があるかを考えることにより、世の中の様々なことが自分にとって意味のあることになる。それが芸術系教科を学ぶ意義ではないか
- 美術教育における創造性について、意味や価値をつくりだすことは、見方・考え方の位置付けられているが、現実に対する意味、そして、まだ見ぬ未来に向けた意味、つまり、子供による問題提起が重要
- 創造することの喜びを味わい、自ら考え、自らものをつくっていくという創造する能力は変化の激しい社会において重要な資質・能力であり、芸術系教科の根本となる。
- 児童生徒が主体的に自分の感性で作品をつくる際の前提としてコンセプトワーク（企画・構成力）を大事にしたい。論理的思考、創造的思考、批評的思考などが複雑に入り込んでいる。イノベーションが求められる現代社会においてこれら三つの思考は重要。
- 芸術教育は鑑賞者だけではなく表現者を育てるということを考えたときに、創造性と結びつく。子供たちの創造性を育むために、教師がどのように創造性を意識した授業デザインができるかを考えることが重要。
- 芸術系教科において創造性を育むためには、知性と感性をどのように関連付けて新たな価値を生みだすか、または自分で価値を見出すか、という学習が重要。
- 中核的概念等の示し方に関しては、現行の学習指導要領を発展し、創造性や感性といった要素でまとめるべき
- 創造性は高次の資質・能力であり、創造性を支える基盤的能力を柱の中に位置付けることにより指導の具体性が実現される。
- 【音楽】音楽は再現芸術が中心であり、既存の曲から作曲者の意図を探りながら演奏していくという特徴がある。授業でみんなで演奏する活動で、作曲者の考え方や音楽構造読み込んでいく中で、いかに自分のオリジナリティのある表現を見いだしていくか、それをみんなで表現し創意工夫を位置付けていくのかが大事。
- 【図画工作】図画工作・美術科の現行の見方・考え方の文末は「意味や価値をつくりだすこと」であり、教科の本質的意義である創造の重要な部分である。「つくる」ではなく「つくり、そしてだす」という中に、これまでになかった意味や価値を創出する意味がある。創造は現状の問題解決のために発揮されるだけでなく、未来に向けた問題提起としても発揮される。
- 感性や創造性が大切であり、感性はよさや美しさについて心が動く、この点を育てることが重要。創造性では、身体も使いながら自分自身にとっての意味や価値をつくりだすことが重要。それは、自分自身をもつくりだすことである。

第1～3回芸術WGにおける主な意見②

【創造性】(つづき)

- 【音楽】創造は大事なことだが、言葉 자체が様々な意味を持ち、文脈によって意味が変わるので慎重にならないといけない。
- 【音楽】創造性は音楽の理解や技能、習得だけでなく、自らが音を生み出して新しい表現を構築する力。創造性という資質・能力に主軸を置いて考えることも必要であり、どのような資質・能力と関連するものであるかをぶれないように考えていく必要がある。
- 【音楽】「創造的」が入ることで芸術系教科の意味や意義が明確になった。ただし、小学校では少し難しい可能性がある。
- 【美術】目標のレベルが造形的な使われ方に限定されている印象。造形的な観点にとらわれすぎると、創造の土壤を耕す教育に繋がるかどうか疑問。
- 【美術】「感性や想像力を働かせ」の「想像力」を「創造力」にしてはどうか。考え方が限定的なものから、のびのびとイメージを広げるというものにするという考え方で、クリエイティビティの創造が適しているのではないか。
- 【美術】学びに向かう力、人間性等については概ね同意だが、「美術の創造活動に取り組み」については柱書を持って行く形に戻してもよいのではないか。
- 【美術】美術教育の目標は、創造的な取組を通じて、主体的に世界を経験し探究することがベース。美術そのものが目標ではなく、創造的な取組が世界を経験するための手段。
- 見方・考え方の文末が「意味や価値をつくりだす」となっており、前段は様々だが、意味や価値を見いだす・つくりだすという事が、芸術系科目を通底した部分になるのであれば、創造性の意味や価値を教育の中の重要な思考の一つとして位置づけるべき。

【想像力】

- 想像力は図画工作・美術の現行の見方・考え方にも含まれるキーワードであるが、芸術系教科・科目全体で育成すべき資質・能力としていくことが重要。想像力を生かし、授業で学んだことと社会や生活の中での芸術に共通項を見いだすことが芸術を学ぶ意義の認識に繋がる。
- 【図画工作】図画工作では児童が自分のイメージをもちながら主体的に発想や構想をすることが重要であり、発想や構想をする時間を確保することやICT端末を活用することも考えられる。
- 【音楽】現行CSでは「自己のイメージや感情」が入っているが、たたき台では削除されている。現場の子供たちの様子を踏まえると、削除してもよいかどうかは検討が必要ではないか。
- 思考力・判断力・表現力等について、言葉で考えず、頭の中で想像することが原点と思うので、イメージ力は強調してもよいのではないか。

第1～3回芸術WGにおける主な意見③

【感性】

- 子供にとっての芸術系教科を学ぶ意義に関し、子供の中心には感動（心が動かされる経験）がある。調査結果からもその必要性は感じているが、音楽の学習が役に立つということを感じていない子供が多いことから、音楽を学ぶ意義を子供たちが捉えられるようにしていくことが大事
- 芸術系教科は人間の感情に直接的に影響を与えることができる。感性と知性の両輪を働かせることが重要。特に感性に重きを置くモデルや知性に重きを置くモデルがあつてもよい
- スマホなどで考える間もなく情報が入ってくる中にあって、芸術系教科を通して自分とは何か、美しいと感じた理由は何かを思考することで、新たな価値をつくりだすということが重要。正解を求めるのではなく、身体と心を使い、感覚的に捉えることと論理的に思考することを繰り返すことによって、実感的な理解をすることに意味がある。
- 芸術系教科を学ぶこと自体が感性を育む上で重要であり、つくりだす喜びそれ自体の大切さも忘れてはならない
- 芸術系教科を学ぶ意義を明確化することは教師にとっても子供にとっても重要で、「感性」は一つのキーワードになる
- 芸術系教科は感覚的に捉えることが感性の育成にも繋がるという特性がある。また人間の感情の変化に影響を与えたり、人間として芸術活動をする上での喜びを体験することが精神浄化につながっていく。
- 【書道】書道の制作過程は一回性であり、筆記具とその対象となる紙が触れ合う触覚、研ぎ澄ます視点が重要となる。
- 【音楽】見方・考え方について、もう少しすっきりさせるために、「音や音楽を芸術的な感性及び知性を働かせて捉え」としてはどうか。これからのA I の時代や、将来の仕事の展開を考える時に、芸術的な感性及び知性は大事な視点。
- 【音楽】「豊かな情操を培う」ことが科目目標に明記されるのは重要。
- 【音楽】自己のイメージや感情のように直感的に想起されるものについて、自分にとっての意味や価値を見いだすために必要。楽しさや美しさを意識するためには感情面との結びつきが大事。内容を含めどこかに記載が必要なのでは。
- 「感性を働かせ」を文頭（見方・考え方）に置くのなら、冒頭の言葉が後段にもかかってるので「感性や創造力」の方が適切。
- 「感性を働かせ」が文頭（見方・考え方）にきてるのは重要。感性や創造力が、造形的な視点でとらえる際や、意味や価値をつくりだす際のいずれにも働かせていることがこれまでの学習指導要領にも位置付けられている。

第1～3回芸術WGにおける主な意見④

【感性】(つづき)

- 【書道】「書の美を感じ取り」となっているが、高等学校では、美ということについて考えることが重要。今後の検討の中で、芸術教科全体の目標や見方・考え方、共通の学びとして美を位置づけられないか。
- 「豊かな情操を培う」をすべての教科・科目の目標に入れたのは良いこと。情操とは、心が動いても元に戻る、復元して安定して、その人自身の機能をフルで活用させられる能力だと考えている。説明においても、そうした気持ちを安定させることも含むよう整理しできるとよい。
- 「感性を働かせ」（見方・考え方）に関して、芸術教科の領域を代表する文言の一つであり、可能な限り共通した書きぶり・表現・言葉遣いがふさわしい。すべてに関わる土台という意味で、文頭に感性がくるのはありうるのではないか。

【充実感、達成感】

- 楽譜を読める技能など、粘り強く学習しなければ身に付かない身体的な技能を習得する過程で達成感などを感じることができ、これが学びに向かう力・人間性等にも関わってくるのではないか
- 表現や鑑賞の前提として、子供の感覚や情意、感性が位置付いていることが必要。子供が教師に伝える「できたよ」には3つの意味があり、①作品・発表ができたという意味、②イメージできたという意味、③私ができた、という意味がある。「私ができた」に対して、活動において子供の感覚や情意、感性が働いた表現や鑑賞として捉えることが教師には必要である。
- 【図画工作】学びに向かう力・人間性等に「楽しく」が位置付いた点は理解できるが、学習に対する子供の情意的な心づもりが必要であり、「楽しい」や「楽しく」が表面的な感情ではなく、その意図が通じるように表していくことが必要。
- 「楽しさを味わう」や「喜びを味わう」などの使い方が各教科微妙に異なり、教科の特性から考え直す必要があるのではないか。芸術系教科では特に大事な部分であり、学校において目指すべき、学びに向かう力、人間性等としてどういう表現が良いか精査する必要がある。「達成感を味わう」のように内発的な動機付けが高まることに関連する文言を含め、改めて検討していくことも必要。

第1～3回芸術WGにおける主な意見⑤

【身体性】

- 身体性を音楽学習のみならず、教科横断等の枠組みに位置付けることで、我が事としての学習が実現し、ひいては全ての教科等に開かれた感性や知性、創造性の土壌となり得ると考えている
- 芸術系教科では、実際に本物に触れる教科特性があるので、身体性が重要。思考・判断・表現の技能に偏った授業も見られる中で、聴いたり、目で見たり、感じたりしたことを学びとして表現したり、言葉で表していくことも大事
- デジタル機器の活用も大切であるが、実際の対象物を諸感覚で感じるフィジカル要素も重要
- 体験活動や諸感覚を働かせて学ぶフィジカルに関するものが教科理解の上で重要。幸福な人生の実現のためには、トップダウン型の学習だけではなく、美術教育に多く含まれ、学習者本人のありようを尊重した学びであるとともに、幼児期から繋がる諸感覚を駆使した身体性の学びであるボトムアップ型の学習が必要である。
- 芸術系教科の意義、強みは、個人の身体的体験により感情や感覚を巻き込んだ学びができる。個人の感覚・感情と結びついた学びにより身に付いた知識は、他の学習でも生き、ちょっとした違和感に気付く能力のように社会の様々な職業でも生きる。
- 体験が大事であることは言葉で伝えるのではなく、実際の音楽体験や造形体験に基づいて子供たちが実感するものでなければならない。美しいものをつらなければならぬという結果を重視する価値観が子供たちの中にあり、それを払拭していくことが重要。
- 【美術】身体の諸感覚を働かせることは重要であり、芸術系教科の役割。検索すればすぐに答えにたどり着ける環境も大事かもしれないが、逆に想像すること、新しいものをつくりだすこと、問い合わせ立てることの妨げになり得る。タブレット端末は答えを見つけるのではなく、問い合わせ出すことに用いられることが重要

第1～3回芸術WGにおける主な意見⑥

【多様性理解】

- 「多様性の包摂」はこれから時代において重要。特に芸術系教科ならではの様々な学びにつながる
- 「多様性を個人や社会の力に変えていく」という点が芸術系教科の強みであり、これを基本的な考え方として、芸術系教科を学ぶ意義を考えていきたい
- 芸術系教科は絶対的な正解がない学びであるので、多様性（寛容性）の概念も入り得るのではないか
- 芸術系教科では、一人一人の特性を生かした学びが可能となる。特別支援教育の学びは芸術系教科との親和性が高く、例えば合唱では声が高い人、低い人で別れて歌うが、これはインクルーシブな場であり、多様性の包摂にもつながっていく
- コマ撮りアニメやプロジェクトマッピングといった様々なデジタルを活用した題材が行われているが、小学校のクラスに学習面や行動面で著しい困難を示す児童がいる現状で、デジタル学習基盤は多様性を包摂するために使うことも考えられる
- 芸術系教科は分からないことや理解できないことに面白さを感じることがスタートであり、理解することがゴールではないところに特色がある。探究を通して、自分や他者、世界や社会におけるウェルビーイングを理解していく楽しさが、多様性につながると考えている。
- 表現や鑑賞における対話において、自分の考え方や意見をもつことに加えて、他者を受け入れる学習が学校教育の学びとして重要。将来社会で他者と協働しながら生きていくことには効果的であるとともに、互いに尊重する態度を育することにより多様性の包摂の視点からも重要となる。
- 【書道】教師の提示する文字や作品にいかに近付けるかといった再現性を求めるだけの授業からいかに脱却できるか。ICTを活用して生徒の学習履歴を保存することで、生徒一人一人が感じたり考えたりしていることが異なったり、単元が進む中で、自己や他者の考え方や感じ方が変容していくことを自分として確認することもできる。そうした活動の中で、自己の考え方をどのように形成していくか、という視点が、多様性の包摂につながり、芸術科の強みである。
- 学びに困難を抱える子供たちにとって芸術系教科の学びは重要。論点整理に示されている「「好き」を育み、「得意」を伸ばす」が、各教科の特性を考えた時に学びに向かう力・人間性等に限られず深い学びの実装にも関わるという視点からの検討が必要。

第1～3回芸術WGにおける主な意見⑦

【主体性】

- 子供自身が考えることができる指導が重要。指導過多でも放任でもなく、教師が指導することと子供が考えることとのバランスを考えることや、学習の過程を重視した指導が求められる。
- 表現と鑑賞の関連について、例えば、国際バカロレアの中等課程では、調査研究を行い、深く文脈に沿って美術を捉え、アイデアを探究し、創作し、振り返りをする。作品だけで評価するのではなく、過程を大切にすることにつながる。
- 子供自らが問い合わせ立て課題を解決できるような授業を考えることが大切。また、教師自身が授業を通して、どんな子供を育てるのかを考え、子供の姿からその資質・能力を発揮できているか捉えて、価値付けていくべき。
- 子供の表現に関わる大人や周囲の環境について、教師や子供と関わる大人等の学習観や子供観もアップデートさせることが重要。子供が自律的に学習することがどういうことなのかについて共通理解を得るべき。
- 【音楽】思考・判断・表現と表現の技能をつなぐ資質・能力として、試行錯誤する力が重要。試行錯誤して答えを見つけ出すことは問題解決の能力として重要である一方で、試行錯誤する場面が少なくなっている。量的な時間としてではなく身体により体験される質的な時間として試行錯誤の重要性を考えていく必要がある。
- 【美術】美しいと感じると同時に、なぜ美しいと感じたかを考えたり話し合ったり説明したりする力がますます重要。教師が視点を示すことは、発達段階に応じて必要だが、知識を一方的に教えるのではなく比較したり語り合ったりして自ら獲得していくことが重要。また、教師が子供の多様な視点や考え方を見付けたり価値付けたりして、子供が気付いていないところも教師が拾い出して整理する力が求められる。
- 【図画工作】学びに向かう力・人間性等の「主体的、協働的に、楽しく創造活動に取り組み」の部分は、現行学習指導要領の学年目標にも記載があり、楽しさを感じながら創造活動に取り組むことの大切さを改めて打ち出しており重要な視点。
- 【図画工作】「主体的・協働的」は、教師が指導することと子供が考えることのバランスを考え、子供たち自身が考えることが出来るようにするということに繋がるものであり重要。

第1～3回芸術WGにおける主な意見⑧

【協働性】

- 子供たちが芸術系教科の意義を感じながら学ぶことが重要。学校という集団の中で芸術を学ぶ意義とは、他者と自分との関係性の中で学校が相互承認の場であり、自己肯定感や自己有用感が育まれていく
- 端末を活用しながらも、個人的な作業ではなく、ともに学び他者と一緒につくりだす喜びや自分が刺激を受ける喜びが必要であり、学校で芸術を学ぶ意義はここにある。
- 【音楽】聴覚だけではなく、視覚や雰囲気など諸感覚を働かせた学びが重要。音楽は時間の流れとともに消えゆく芸術であり、一回のみの時間を楽しむことに音楽のすばらしさを感じられる体験が大切。仲間と一緒につくり上げることの喜びが特徴であり、少人数での可能性や自分で選んだ仲間とともにつくりあげる、多様性を意識することも重要。
- 【音楽】音楽は諸感覚を使う科目であり、仲間とつくり上げながらも自分がどう生かされているか、どんな役割を果たしているかを捉えることが必要。伝統文化を題材にするときには自分自身が文化の継承者であることなどを自覚できるようにすることが必要。
- 【メディア】創造的なプロジェクトを協働して実行する力を育むことが重要。作品を構想して発表するまでの間に多くの対話があり、自身の考えを表明するとともに他者の多様な考え方を受け入れ問題解決の糸口を探る。よりよい社会の形成や民主主義社会の基盤を支えることにもつながっていく。

【文化の理解】

- 文化への理解は重要であり、我が国の文化とはどういうものなのか、どういう文脈でその文化があるのかといった、広い視野でとらえることが大切
- 芸術が生まれてくる背景や歴史の基となる文化や社会があることを理解することが重要。グローバルな視野の下に自己を見つめ、多様な文化理解に伴って再度自己理解へつなげていくことも必要。
- 芸術系教科の特質は、文化芸術の継承と発展を担うもの。
- 伝統文化の学習は重要。日本人としての見方あるいは考え方、ひいては日本人とは何かを考えることが重要
- 伝統文化の学びについて、外国の文化を知ると自国の文化のよさも学べる。地域素材や我が国の伝統音楽に関する教材を用いるなど、学校で伝統的な音楽や文化をしっかりと学べるようにしていくことは重要
- 発達の段階を踏まえつつ、鑑賞でだけではなく、表現においても文化の理解について学び、芸術系教科全体を通して学習することが大事。

第1～3回芸術WGにおける主な意見⑨

【文化の理解】（つづき）

- 【音楽】グローバル化する社会で生きていくために異文化理解が重要であり、我が国の郷土や伝統音楽に対する理解はもちろんのこと、世界の諸民族の音楽に対する理解について学ぶ意義を示すことは大切。
- 【美術】子供たちが身近な生活の中に根付いている美しい文化を見付けだすという活動を通して、自国だけでなく他国も含めた文化の理解に繋げていくことが重要。
- 【書道】伝統文化の視点として、自国の文化の理解は他国の文化の理解につながりその逆もしかり。グローバルな視点、多様性の包摂に繋がっていく。日本特有の視点がこれからの社会で日本独自の新たな価値を生みだす根底になる。
- 【音楽】見方・考え方の教科固有の考え方や判断の仕方に、小学校にも「伝統に関わらせる」ことを含めていることは重要。
- 【図画工作、美術】「文化」が各学校段階に位置付けられている（見方・考え方）が、子供たちには継承と創造の二つの意味をもつ。文化がもつ意味をふまえ、発達の段階に応じた文化の位置付けを整理していくことが重要。
- 【美術】美術文化と豊かにかかわる資質・能力の育成について、教師がその価値を一方的に教えるのではなく、子供たちが作品と出会い、自分自身の目でよく見ることを出発点にして、美術の働きや美術文化のよさを楽しみ、味わうことが重要。
- 【美術】美術文化の理解というと、鑑賞をイメージする教員が多いかもしれないが、全国における実践には表現の授業も数多くみられる。見ることとつくることの両方を通して、文化が身近な生活にあり、歴史の中で受け継がれてきたという実感的な理解に繋がっていくことが大事。
- 【書道】伝統や文化について、伝統文化の目標に係る文言には賛同するが、見方・考え方を含めなくてよいのかどうか検討が必要。
- 【美術】「美術や美術文化と豊かに関わる」（目標の柱書）について、「美術や文化と豊かにかかわる」としてもよいのではないか。芸術系教科は文化を根底から広く捉えられる教科であり、芸術が相互に関連していると考える。
- 子供たちが向かうべきは文化を継承し発展することであり、発展させるという思考を育むために、創造力、意味や価値を見いだすという風に働くべき。

第1～3回芸術WGにおける主な意見⑩

【知識・技能】

- 芸術教育そのものである知識・技能の学びを大切にすることが芸術教育の本質である。
- 【音楽】音楽をイメージや感覚で捉えるだけでなく、用語や記号を正しく理解することで他者との共有や共感が可能となる。知識を積み上げていくことで、生活体験と関わらせながら音楽の理解がより深まることに繋がる。
- 【図画工作】児童が自分の表したいことに合わせて表現方法を選んだり組み合わせたり新しい表現方法をつくりだしたりする、自分なりの表し方を工夫することが技能として重要であり、深い学びや創造性につながる。
- 【美術】形や色彩、材料、光などの造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風で捉えるといった知識を今後も明確に示していく必要があり、言葉を使って考えたり、話し合ったりする学習の充実に繋げていく必要がある。このような知識を得ることがものの考え方や捉え方の豊かさになり、学びの深まりが生まれる。
- 【音楽】音楽の技能は学校を離れたときに、自分一人では身に付けることが難しい性質があるからこそ学校でどのような資質・能力を身に付けていくのかを考えいく必要がある。音楽に出会ったときに理解できないことが拒否につながるのではなく、学びや豊かな人生のスタートになるためにどう考えるか、どのような知識が必要なのか、自分たちで探究していく力が大事。
- 【音楽】「②表現したいことをどのように形にできるか」について、技能は含まれるのかどうか。表現したいことをどのように形にできるかに関して技能は関わってくるものであり、思いや意図をもつことは当然だが、それをどのように形にできるかは技能が必要となる。
- 【図画工作】知識と技能の両面に関連させた議論が重要になってくるのではないか。
- 【図画工作】知識及び技能の「造形の働き」の部分について、自分や友達の作品、生活の中の造形の作用や役割を理解することは図画工作科を学ぶ意義に繋がる。
- 【美術】知識及び技能の「みることができる」が「創造的」にかかっているのは疑問。鑑賞は創造的に観ることより根拠をもって類推していくことが主である。知識及び技能の対象を表現・鑑賞に留め、取り組み方、目標達成のレベルのように段階的に記載するのがよいのではないか。
- 【美術】美術の働きや美術文化を知識として記すことは概ね賛成。鑑賞のみならず、表現活動でも行う事で、美術文化を実感としてとらえることができる。注意すべきは、実感を伴いながら理解を深められるため、表面的な学習にならないように学校現場に説明していく必要がある。
- 【映像】届けるもの（メディア）があって初めて人々の目に触れる。メディアの特性やどのようにそれが届けられているかという点に関する知識も必要だが、あまり強調されていないのではないか。
- 芸術系教科・科目において知識及び技能が何であるかということは問い合わせ直す必要がある。鑑賞における技能が成立するのかどうかを含めて改めて考えていくべき。

第1～3回芸術WGにおける主な意見⑪

【鑑賞】

- 鑑賞は子供にとって大切な学びである。形や色などを根拠に鑑賞することはできている一方で、その先の文化についても出会えるようしていくなど、鑑賞を深めていくことが大切
- 実体験を重ねていくことが物事を見る精度を高めていく。自分の感覚を十分に実感した上で鑑賞することにより、見えているものの向こう側にある作家の息遣いや緊張感、深みなどが感じ取れ、深い学びにつながる
- 現代アートにあるような、作品の中に内在している人類の願いや差別への叫びなどに着目し、鑑賞の中で学んでいくことが重要。時代や社会について考えるきっかけになり、課題や問題提起をしていける視点をもつことにもつながる
- 作品をどのように捉えていくのか、表現された世界をどのように読み解いていけばよいのか、鑑賞者を育成することが重要。鑑賞のプロセスの具体的手順や方法といった鑑賞の深化を発達段階を通して段階的に育てていくべき。事象を分析的に捉え、批判的に物事を捉える力はあらゆる教科・科目に通底する資質・能力である。
- 感性や感じ取る力は非常に重要。観察や鑑賞を通して心が動く体験を子供たちができるようにしていく必要があり、自分や他者の感情を自覚し受け止めることが大切。
- 【音楽】小学校の「曲や演奏のよさや楽しさ」「音楽を聞き深める」というキーワードは重要。一方、中学校では、思考力、判断力、表現力等に「評価しながら」が含まれるが、客観的な部分が前に出すぎているので、小学校と同じような形（「見いだしながら」）もありえるのではないか。
- 【音楽】「聞き深める」について、学習の向かうべき方向性が示されている。ただ、「味わって聴く」という表現には、音楽に浸るとか、全身体で聴くというニュアンスが含まれている。これまで使ってきた「味わう」という文言が消えてしまうのは残念。
- 【図画工作】「生活や社会、文化と関わり」が入ったのは有意義。生活、社会、文化の視点を見方・考え方を取り入れることによって、作品や美術館、博物館、文化財などを教師が授業に取り入れる必然性が生まれる。時間軸が子供たちの中に自然に意識づけられると共に、鑑賞の意義や学ぶ意義が伝わりやすくなるのではないか。
- 【美術と図画工作】適切なタイミングで理解が深まったり新たな気づきが生まれたりする情報を提供することが不可欠。発達段階の話も出たが、どのような知識を伝えていけばよいのかという視点が現場では弱い。次の作品を見る時に鑑賞を深めて作品を深く味わう力に繋がってくる。
- 【書道】思考力、判断力、表現力等の「感じ取り」について、鑑賞の際は、書かれた言葉を読み取って理解し、自己と向き合い再度作品と対峙したり、時間をかけ何度も鑑賞したりすることで書の良さや美しさを理解できる。「感じ取り」としてしまうと、文頭の「書のよさや美しさを感受し」と似通ってしまうのではないか。

第1～3回芸術WGにおける主な意見⑫

【豊かな社会の創造や幸福な人生】

- 創造性は、自分なりの意味や価値をつくりだすことに留まるのではなく、社会との関わりにおいてベクトルを外へ向けていくことが重要。
- 芸術系教科は感性や情操の育成につながる審美教育である。価値を実感できることにより積極的に学びに向かっていく力につながり、価値が生活や社会を豊かにすることにつながるということに実感がもてるようになることが重要。
- 芸術を通して豊かな人間性を涵養し、創造性・感性を育み、情操を培っていくことは豊かな社会の創造において不可欠である。
- 伝統と文化や文化芸術の意義を明確に位置付ける必要がある。日本の文化と世界の文化を知り、比較して学んでいくことや多文化理解はこれから社会で必要な資質・能力であり、生活や社会とのつながりにおいて芸術が幸福な人生や豊かな社会の創造に繋がることを、表現や鑑賞を通して実感をもって学習することが大事。
- 【音楽】見方・考え方の後段、「自分や他者にとっての意味や価値を見いだす」とあるが、高校では少し広げて他者を「社会」とし対象を明確にすることもありうる。学びに向かう力・人間性等の中で、「豊かな生活や社会を築いていく態度を養い」とあるので、具体に示していくこともあり得るのではないか。
- 【図画工作】造形美術の働きを位置づけることは賛成。自分、他者、自他の関係性や地域、社会、文化と対象に広がりがある。地域、社会、文化に対しての働きは、役に立つと狭義で捉え得られがちだが、図画工作科では、自分に対する働きがあつてこそ地域、社会、文化への働きも成立する。
- 【美術】「生活や社会、文化と関わり」の部分について、創造性を身に付けた結果、生活や社会の豊かさにつながるということについて目標での明記が必要ではないか。
- 学びに向かう力・人間性等について、相手がどのような感性、考えで受け入れるかという、受け取る側を考えることが多様性を尊重することや社会に繋がっていくので、その点を強調してもよいのではないか。
- 【美術】地域の文化や美術教育を子供に教えるのではなく、子供と一緒に教師も学ぶことを通して、日本人としての美しい生き方、豊かな生き方を理解できると考える。文化の理解を誤解して受け取られないように、知識の中に位置付けるのであれば、「美術の働きや美術文化を理解する」という文に「実感的に理解する」と追記できればよい。
- 【図工、美術、工芸】生活、社会、文化との関わりが示されているが、それぞれの教科・科目で関わりのニュアンスが異なるのではないか。

第1～3回芸術WGにおける主な意見⑬

【教科横断や連携の在り方】

- 概念理解は国際バカロレアの学びと共に通していると感じている。教科は教科として学び、教科等横断的な学びは表面的なつながりではなく、本質的な概念で繋げていく
- 他教科にも汎用できる資質・能力について。現行学習指導要領には「知識を相互に関連付けて」と記載がある。双方向性の学習が重視されているが、他教科に影響を与えるだけではなく、他教科で身に付けた力を芸術系教科で使うこともあり得る。
- 芸術教育で育まれる他教科に汎用する資質・能力は、想像力、試行錯誤する力、挑戦する力、リスクをとる力、自ら問い合わせる力、答えのない問いに最適解を見つけ出す力、多様な解を互いに認め合う力が考えられる。
- 芸術はSTEAMのAの役割として新たな気付きを生み出し、粘り強く解をまとめる教科としての関わりがふさわしく、探究的な学びを深めるためには、その側面から芸術系教科と他教科との連携が重要。子供たちの思い付きや失敗を受容する環境の醸成が大事
- 日本型のSTEAM教育をどうつくっていくか。STEAM発祥のアメリカと日本とは歴史や考え方が異なる。STEAM教育は教師自身のマインドセットの向上にもつながるのではないか
- STEAMは理科系に偏りすぎているのではないか。もっとAの学際性に着目してもよいのではないか。
- 【図画工作・美術】イノベーションに繋がる相互に関連付ける力が芸術系教科・科目の重要な資質・能力。作品に至るまでの過程を重視することが大切で、生活・総合的な学習の時間における探究のプロセスと図画工作・美術における探究・創造のプロセスの共通点・相違点踏まえながら、知識や技能を考えしていくことが重要。
- 【メディア】映像分野は教科を繋ぐハブである。物語構成や言語表現での国語、社会課題を考える社会、観察としての理科、論理的思考としての数学、外国を意識したコミュニケーションとしての外国語など。芸術の他分野にも密接に関わる。
- 小中高全体で各教科・科目を俯瞰し、見方・考え方を再構築していくことも重要。学びの深まりについて、書道では小・中の国語科書写とのつながりがあることから国語科書写との連携が重要。文字文化の考え方を再整理する必要があるのではないか。
- 地域社会と学校をどう連携させていくかが重要。芸術系教科の重要性を地域社会にどう理解してもらうか。その上で、他教科との連携はこれまで以上に重要な視点になってくる

第1～3回芸術WGにおける主な意見⑯

【その他】

- 現行の工芸の内容は、「身近な生活と工芸」及び「社会と工芸」により整理され、どのような視点に立って資質・能力を育成するかという学びの方向性を意識したものとなっており、今後一層進めていくことが必要。
- 高校においては、音楽・美術・工芸・書道と科目が分かれてしまうが、芸術教科全体として学ぶ意義を考えることは重要
- 高校のどの科目においても自分や社会にとって芸術がどのような意味や価値をもつのかを学ぶことは、人生を豊かに生きていく観点から重要
- 作品をつくっていくというプロセスの中に、創造性、批判的思考、問題解決能力、協働性、コミュニケーション能力、ICTリテラシーといった重要なスキル、能力の開発が含まれている
- 各科目の共通する中核的概念は見えてきそうだが、各論に入ったときにそれがどう結び付けられるか
- 構造化・表形式化をイメージするにあたり、現行学習指導要領解説の系統表のように発達段階ごとの系統をはっきりさせていくべき。見方・考え方は系統立てるのは難しく、シンプルに示していくべきではないか。
- 総則評価部会の構造化パターンにおいて示された、高次の資質・能力を「知識及び技能の統括的な理解」とすることについて、「理解」という言葉で文末をまとめることは芸術系教科の内容の特性を考えたときに適切かどうかと考える。
- 高等学校芸術科の教科目標が、各科目を繋ぎ合わせたものになっている。キーワードを抽象化してもう少し端的に短くできればよいのではないか。
- 【美術】学びに向かう力・人間性等において「心豊かな生活を」の生活の前に「社会」を記載してはどうか。
- 【図画工作】造形的な視点がどのようなことなのかを、もう一度再確認する必要があるのではないか。
- 【美術】現行の取組の内容は、造形性が主軸にある様に見える。造形性に収まらない現代美術は美術教育に組み入れられないのではないかと感じている。

第1～3回芸術WGにおける主な意見⑯

【その他】(つづき)

- 現代特有のメディアによる感情のコントロールやA I の進化といったメディア環境において、自分を取り巻く社会環境に対する批判的な思考が育まれるべきではないか。
- 【書道】見方・考え方について「文字や書」と改められているが、別々に取り上げることで、文字と書が別物であるような印象を与えるのではないか。デジタル化により、筆で文字を書く手段以外も考えられる中で、文字や書が何を指しているのか混乱を生むのではないか。
- 文頭にある「捉えたり」について、知的に分析するというイメージもあるので、「感覚的に捉えたり、感じたり」とした方が正確に伝わるのではないか。
- 並行パターンはⅠ～Ⅲの資質の深まりを一見してとらえやすいが、思・判・表の統合的な発揮と知・技の統合的な理解を捉えるのは並行パターンでは難しいのではないか。例えば、高等学校の科目の履修が必須履修科目であるⅠを付した科目で終える生徒が多いということをふまえれば、高等学校芸術科においては、全体を並列パターンで示していく検討の余地もあるのではないか。
- 「自分や他者にとって意味や価値を見いだす」という部分を、目標のどこかに位置付けられないか。目標が難しければ、高次の資質・能力として、知識及び技能の統合的な理解の部分にそれがあたるか。
- 高等学校芸術科全体の見方・考え方が、各教科の要素を組み合わせた形で提示されている。この部分を、教育課程全体における芸術教科において、何を学ぶのか、どのような方向性なのか明確にさせる必要がある。